



ビオトープ・ニュース創刊

記者：榎本幸実（会員）

身近な自然や野生生物の生息・生育空間に関する情報交換の場として、「ビオトープ・ニュース」を創刊しました。ビオトープ・ニュースは、会員内の情報ツール「ピオとく・レター」のDNAを継承しています。今後は、本会が掲げる取組のひとつ「地域活動の情報発信」として、誰もが共有できる情報ツールとして進化していきます。情報収集や記事の執筆・編集においては、ビオトープ管理士行動規範の遵守とともに、以下を基本ルールとします。

- ・ 評価や提言はしても誹謗や中傷はしない 誹謗中傷では何も解決しない
- ・ 話題は何でもありで制限はしない ビオトープは全てとつながっている
- ・ 記事内容に自己責任を負う 言葉や文字は良くも悪くも力を持っている

このルールの下であれば、誰でも、何処でも、何でもOKの気軽な情報交換ツールになることを狙いとしています。読者全員が参加し、「自然と共存する美しいふるさと」のためにご活用いただけることを願っています。

平成20年度ビオトープ管理士資格試験合格発表

記者：榎本幸実（会員）

【平成20年度ビオトープ管理士資格試験合格者情報】

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 徳島会場の受験者数 | 30名（計画7名/施工23名） |
| 2. 徳島会場の合格者数 | 13名（計画4名/施工9名） |
| 3. 徳島会場の内、徳島県在住の受験者数 | 9名（計画3名/施工6名） |
| 4. 徳島会場の内、徳島県在住の合格者数 | 2名（計画1名/施工1名） |
| 5. 全国会場を含めた徳島県在住の2級合格者数 | 2名（計画1名/施工1名） |
| 6. 徳島県在住の1級受験者数 | 1名（施工1名：過去には4~6名?） |
| 7. 徳島県在住の1級合格者数 | 0名 |

最近の受験傾向としては、受験者総数は横ばいで推移しているようですが、地方によって増減の較差が見られ、概ね都市部で増加し、地方部では減少傾向にあるようです。しかし、この資格が公共調達における入札指名要件に認められている都道府県では、増加傾向にあるようです。また近年では、学生(2級)の割合が高くなっていることや、公務員(国・県・市町村)、主婦や定年退職の方の受験が目立っています。

ビオトープ管理士資格試験対策

記者：榎本幸実（会員）

【お知り合いの受験者への情報提供に】

（ある知人への情報提供の転載です）

受験対策は、Web上にたくさんあります。

- ・ インターネットで「ビオトープ管理士資格試験」で検索してください。
- ・ 細かく見ていけば、受験者からの情報書き込みのページなどもあります。
- ・ とりあえず「手軽に」の場合は、問題集購入です。下記をご参照下さい。
- ・ 本格的にとの場合は、実地指導もあるようです。下記をご参照ください。
- ・ その他の受験講座として、下記 などがあります。

記

問題例集ビオトープ管理士資格試験（第2版）（ビオトープ研究所）

<http://www.g-hopper.ne.jp/free/fukuda/ton/aisatsu.htm>

ビオトープ管理者養成講座（人と自然の研究所）

<http://www.bio-inste.com/>

ビオトープ管理士受験講座（ジオ・プレス）

<http://www.geo-bless.com/>

ビオトープ管理士セミナー（日本生態系協会）

http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/activities/biokan/bio_semi/index.htm

私が受験した頃は、しかなかったのですが、その後の受験者からの情報では、の評判が良いようです。

書籍紹介

記者：榎本（会員）

【季節と生きものと生活文化の関係がおもしろい】

ビオトープに関り始めてから、太陰暦や地域ごとの農事暦に関心を持っていました。太陰暦カレンダーを入手したり、二十四節気を調べたりもしました。

昨年末に、この本が書店に並び、思わず手にとりましたが、少々物足りないなあといった感じです。

でも、ちょっと息抜きにはいいかも？

【にほんのいきもの暦】

著者：(財)日本生態系協会 / 発行：アノニマ・スタジオ

A5変形判 ¥1,890（税込） 注文は下記でも可
<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

以下、宣伝広告文転載

土地の移ろいゆく季節に従いながら根を下ろす植物、咲く花、歌い鳴く虫や鳥たち。

人の暮らしのすぐそばにある、たくさんの小さな命たちにスポットライトを当て、名前の由来や不思議な戦略、また自然の中で育まれた日本の文化などを、二十四節気とともに紹介しました。

身近ないきものたちの存在に気がつく、日々の暮らしがもっと輝きます。

いつもの道のお散歩に、親子での自然遊びに、大切な方へのプレゼントにもどうぞ。

創刊号特集～石井町で「ビオトープ気延の里」活動始まる～

この記事の一部は、ブログ「ビオトープ気延の里」の管理人に許可を得て転載したものが含まれています。

記者：櫻本幸実（会員）

昨年末、石井町に「ビオトープ気延の里」が発足しました。この会は、当会がビオトープ学習会を支援した「石井町ビオトープを考える会」が発展を遂げ、本格的な活動の一步を踏み出したものです。

この活動は、「自分が子どもの頃の身近な自然の中での遊びを、今の子どもたちに取り戻したい」という一人の「ちょい悪おやじ」いや失礼、「熱血オジサン」の思いから始まりました。この思いは、次々に飛び火して、仲間や協力者が増えていきました。この飛び火は、きっと止まらないことでしょう。

活動エリアには、神社、社叢、里山、沢水、ため池、用水路、水田、川という多様な活動(遊び)のステージがあります。更には、中枢機能を担う養護老人ホーム仁寿園という協力施設まで。しかし、この地域も都市化の進展とともに、かつての湿地帯は宅地化や乾田化が推進され、身近な生きものの姿を目にすることが少なくなったそうです。

昨年は、学習会に始まり、先進地視察、椎茸ホダギの収集、仁寿園内の湿地の利活用計画、活動拠点となる神社の祭りでの露店や清掃活動、そして、今年の見玉は、茅原となっていた休耕地を借り受けての田植えです。

田植えは、田んぼの生きものに配慮しつつ、地域の子どもたちといっしょになって取り組むとのこと。ということで、年明け早々から田んぼの再生と自然農法の研究に奮闘中です。

詳しくは、「ビオトープ気延の里」のブログを一度覗いてみてください。ヤフーのブログ検索でヒットします。近々にはホームページも開設とか。これからも目が放せない活動のひとつです。



活動拠点の東王子神社



神社東に隣接するため池



ため池でバス釣りをする兄弟



ため池に流入する沢



手前に用水路、左奥に社叢、右奥に仁寿園



休耕地にはコスモスが!?



水田地帯北端を流れる川



田植え予定地(田んぼの再生)



養護老人ホーム仁寿園内の湿地



養護老人ホーム仁寿園の敷地内に残存する湿地で進められている造園計画の完成予想図

編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ということで、乞う、ご期待！ 編集：櫻本幸実